

青少年の課題に対応した体験活動推進プロジェクト

【事業名】 青少年国際平和未来会議

【事業のポイント】

- 海洋型青少年教育施設の特徴を活用したプログラム
- 地域と連携したプログラムによる地域振興
- 学生スタッフによるサポート体制



スタッフミーティング

1. 企画

(1) 事業企画の背景

①事業実施の必要性

日本の社会は、都市化の中で地域住民の連帯感は希薄化し、地域で青少年を育成する意識は低下している。さらに、核家族化の進行や地域における地縁的なつながりの希薄化、少子化などを背景に、自信をもって子どもを育てることを困難に感じる親が増加してきている。また、昨今の情報化の急速な進展の中で、情報を得ることが容易になる反面、有害な情報への接触により子どもの人格形成に悪影響が及ぶおそれがあることなどが指摘されている。

このような環境の中で、日本の青少年については、社会的な自立の遅れ、人間関係の希薄さ、責任感の低下、自己中心化や、意欲のある子と意欲のない子への二極化の現象がみられるなどの問題が指摘されている。

それらの問題を解決するためには、地域活動を行っている団体（者）と連携し、青少年が社会の課題に向き合いながら異文化や他者との交流を図ること、また、活動に参画してやり遂げる体験をさせることが有効であり、それにより青少年の自律性や社会性が育かれ意欲が向上すると考えた。

そこで、広島市、世界平和と反映に貢献する青少年を育成している青少年団体と江田島市内の自治会等と連携・協力して事業を実施した。

②地域資源・人材等の活用

江田島市では「^{うらぼんえ}盃盆会」のこの時期、盆踊りが各地で開催されていたが、若者の減少等により参加者が少なくなり、開催を取りやめる地域も多くなっている。

本事業において地域で開催される「盆踊り大会」へ参加することは、交流の家での擬似体験活動以上の「本物」の日本文化体験になると同時に、地域の行事を活性化につながるプログラムになると考えた。

企画実現のため、地域の町内会長と連携を重ねるとともに、町内会の会議に出席し、関係者への説明と協力依頼を行い、地域住民から次のとおり協力を得ることができた。

- ① 地域の盆踊り指導者による盆踊りの事前指導と学習の機会
- ② 浴衣・はっぴ借用と浴衣の着付け
- ③ 小用地区盆踊り大会への参加

このことにより異文化体験・交流をいっそう充実したものにし、外国人参加者には、日本文化を理解する一助となり、日本人参加者にとっては自国文化への尊敬の念を持つきっかけとなった。

若者と地域住民が一緒になって踊った盆踊り大会は、江田島市の広報誌にも取り上げられるなど反響も大きく、盆踊り会場で熱心に踊る若者たちの姿を見た地域住民から、今後も交流の家と連携したいと希望が出るなど地域振興につながる一助となる行事となった。

地域と共催した今回のプログラムは、若者に地域の人々との関わりの中で仕事や自分の役割を果たすことの楽しさ、自己の有用感を高めるひとつの事例となった。

(2) ねらい

ドイツ、イタリア、中国、韓国等の青年たちと日本の青少年が海洋体験活動や盆踊り等の日本文化の体験活動を一緒に行うことにより、参加者の国際感覚と異文化尊重の精神を育み、グローバルな視点で世界平和への意識向上と環境を保全していく意欲・態度を養成することを目的とする。

2. 実施概要

(1) 事業実施地域

○スタッフ事前研修会
○青少年国際平和未来会議
○スタッフ事後研修会
※広島県 国立江田島青少年交流の家で実施

(2) 活動実施期間及び総泊日数

○スタッフ事前研修会
7月18日(土)～20日(月) 二泊三日
○青少年国際平和未来会議
8月13日(木)～16日(日) 三泊四日
○スタッフ事後研修会
9月19日(土)～23日(水) 四泊五日

(3) 参加者数 / 対象者年齢等

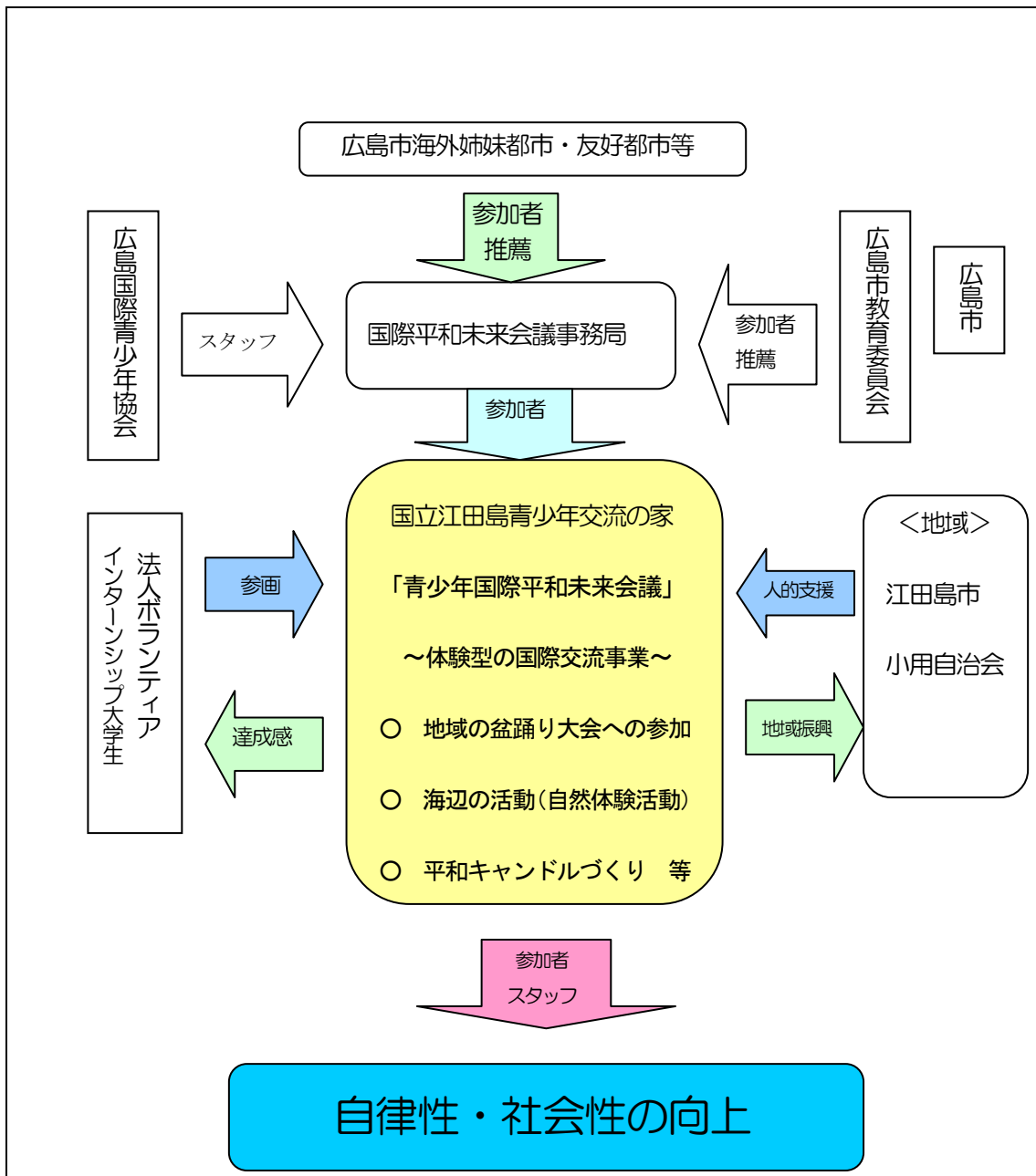
○スタッフ事前研修会
高校生～大学生年齢相当 30名(日本人29名, 外国人1名)
○青少年国際平和未来会議
高校生～大学生年齢相当 53名(日本人31名, 外国人22名)
○スタッフ事後研修会
高校生～大学生年齢相当 21名(日本人20名, 外国人1名)

(4) 事業の企画・立案の検討, 事後の検証・評価等を行う会議

① 構成メンバー

共催団体(広島国際青少年協会・広島市教育委員会・小用自治会)との打合せ時に実施

(5) 事業（調査研究）の運営体制（図示可）



(6) 事前・事後研修会等の実施

- 事前研修会
 (7月18日(土)～20日(月) 広島県 国立江田島青少年交流の家)
 30名(指導者4名)
- 事後研修会
 (9月19日(土)～23日(水) 広島県 国立江田島青少年交流の家)
 21名(指導者4名)

(7) 体験活動（調査研究）等の実施

月 日	内 容	実施場所	参加人数	指導者数
8月13日 (木)	17:30 国立江田島青少年交流の家 到着 17:45 オリエンテーション 18:30 夕食 20:00 プログラム説明 21:00 入浴	国立江田島青少年 交流の家	49名	4名
8月14日 (金)	07:10 朝のつどい 08:30 朝食 10:00 江田島市長表敬訪問 12:45 昼食 14:00 平和キャンドルづくり 15:40 盆踊り練習（地域指導者） 17:00 タベのつどい 18:00 タ 食 19:30 小用区盆踊り大会 21:00 「海ホタル」観察 22:00 入浴	国立江田島青少年 交流の家 江田島市役所 国立江田島青少年 交流の家 小用みなと公園	49名	4名
8月15日 (土)	06:00 瀬戸内海での釣り体験 07:10 朝のつどい 07:50 朝食 09:30 スケッチ・ドミノ 12:00 昼食 13:30 けん玉・竹馬体験 14:30 「ざりがに釣り」体験 15:30 水泳 19:00 さよならパーティ 20:15 平和キャンドルに点火 21:30 入浴	国立江田島青少年 交流の家	49名	4名
8月16日 (日)	07:10 朝のつどい（歌の発表） 07:50 朝食 08:40 退所点検 09:10 退所式 所出発	国立江田島青少年 交流の家	49名	4名



江田島市長表敬訪問



スタッフによる説明
(朝のつどい終了後)



歌による交流
(さよならパーティ)

3. 事業実施上の工夫・留意点

(1) 主要プログラムのトピック

- ペットボトルを活用しての平和キャンドルづくり
及び平和キャンドル点灯
 - ① ペットボトルにペインティングや平和のメッセージを記入し作成。(貝がらや松ぼっくりを活用)
 - ② 製作したキャンドルに灯をともし、平和への思いを新たにするとともに事業のふりかえりを行う。



ペットボトルを使って
平和キャンドル作成

- 日本文化体験（浴衣の着付け・盆踊り）
 - ① 地域で開催される盆踊り大会の事前学習（盆踊りの意義や歴史、踊り方）を地域指導者から学ぶ。
 - ② 地域の女性会が浴衣の着付けに協力していただき、浴衣姿とはっぴ姿で盆踊り大会に参加し、地域住民との交流を図った。



地域の盆踊り大会に参加

(2) 企画に当たって工夫・留意した事項

- 連携強化
毎月、共催の青少年教育団体と情報交換の場を設け、プログラム内容の改善を図った。
「盆踊り大会」が参加者の自己の有用性の確認の場と考え、地域の準備会議や、地域住民との交流により、多くの住民から協力を得ることができ、地域振興につながった。



地域住民の指導による
盆踊りの事前練習

- 本物体験
参加者に事業での体験活動を充実したものにするために、地域行事への参加や施設内で「ザリガニ釣り」体験や「海ホテル」観察などにより本物に触れる機会を持った。



施設周辺でザリガニ釣り体験

(3) 運営に当たって工夫・留意した事項

- 参加者募集
共催先（青少年教育団体・教育委員会）との連携による参加者募集
- 健康管理
参加者の健康管理の留意（特に外国人参加者）
- スタッフについて
参加者と同年代の研修生等（大学生）を活用した事業運営とサポート



大学生スタッフ

(4) 安全への配慮

プログラム別の安全管理マニュアルに沿った安全への配慮

(5) 募集方法、広報活動

(外国人)
16歳から21歳までの男女
各市長が推薦したもの。
(2007年の参加者に限り年齢を問わない)

(日本人)
16歳から21歳までの男女
英語によるディスカッションができること

※広島市HP及び各自治体広報誌での公募



平和キャンドル（火文字）

4. 事業評価

(1) 事業成果

①参加者に及ぼす効果の検証方法・結果

事業実施前と事業終了後（1ヶ月後）に記述式のアンケートを実施し、事業前に目標としていた自律性・社会性を高める活動への参加について、事業終了後のアンケート結果では、全員から学校や地域での活動に積極的に参加していると回答があるなど青少年の自律性・社会性を養成するきっかけとなったという結果が得られた。

また、江田島での体験活動について、「ザリガニ釣り」「海ホテルの観察」「盆踊り」「ペットボトル平和キャンドル」は外国人のみならず日本人参加者にも好評であり、その後の青少年教育団体の事業での活用がなされた。

②上記以外の事業成果

さまざまな体験活動を通して世界平和と繁栄に貢献しようとする意識の高揚が図られるとともに、参加者同士のネットワークが構築され、事業終了後も連絡を取り合い、相互の国を訪問する計画を立てるなど活動の発展につながる交流を進めている。今回の体験活動を通して参加者が、お互いの価値観の違いに気づき、それを話し合い、行動することで課題を解決するなど、中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」の提言にある「すべての青少年の生活に体験を根付かせ体験を通じた試行錯誤・切磋琢磨」を支援する事業となった。

(2) 企画・運営上の課題と対策等

インフルエンザの影響による参加者数の変動が多く、特に外国からの参加者への連絡に困難が生じた。

(3) 事業成果の普及・啓発

今回の体験を外国人参加者は出身地の市長へ成果報告を行い、HP等で成果の発信を行っている。広島市HP（メルマガ）にも参加者感想が掲載されるなど成果が発信されている。また、施設がある江田島市の広報誌にも事業内容が紹介されるなど、地域の活性化にもつながる事業となった。また、地元新聞（中国新聞）に記事が掲載されるなどマスコミも注目した事業となった。

5. 共催団体のプロフィール

共催団体：「広島国際青少年協会」

次代を担う青少年に夢と希望をいだかせ、コミュニティの発展に寄与するとともに、世界平和と繁栄に貢献する青少年を育てている。また、青少年国際交流を継続して行い、ヒロシマの心を伝え、友情の輪を広げながら異文化を学びあっている青少年教育団体。

(活動内容)

少年部は毎月定例活動、成人青年部は不定期、学年部は毎週定例活動、国際部は青少年国際平和未来会議ヒロシマを2005年から隔年毎に開催し、16カ国20都市の青少年代表を招いておこなっている。